

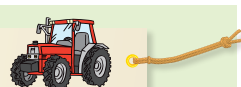
農業産出額21年ぶりに 待望の1,000億円超え

沖縄県の農業産出額は、昭和56年に初めて1,000億円を超え、それ以降平成7年までの15年間は連続して1,000億円台を維持してきました。しかし、平成8年からは1,000億円を割り込み、近年は900億円前後で推移してきました。

この主な要因としては、農業産出額が最も高かった昭和60年ごろに、産出額全体の3割を占めていたさとうきびについて、特に、本島中南部の都市化の進展に伴う作付面積・収穫量の減少により、産出額が減少してきたことが挙げられます。また、昭和60年のプラザ合意後の円高による野菜の輸入量増加の影響を受けて、県産野菜の作付面積・生産量が減少したことや、台風や干ばつなどの気象条件による影響も要因の一つとして挙げられます。



農業産出額は1,025億円で、前年に比べ90億円の増加



平成28年は、前年に比べて90億円増加し、農業産出額は1,025億円となり、平成7年以来21年ぶりに1,000億円を超えました。

これは、国営事業で整備した地下ダムなどにより水あり農業の実施可能な地域が拡大したことや園芸施設の整備が進んだことなどに加え、平成28年は気象条件に恵まれ、台風や干ばつなどの被害が少なく、さとうきび、野菜などの生産量が増加したこと、また、肉用牛の子牛価格が高値で推移したことなどによるものです。

図1 平成28年 農業産出額

単位:億円

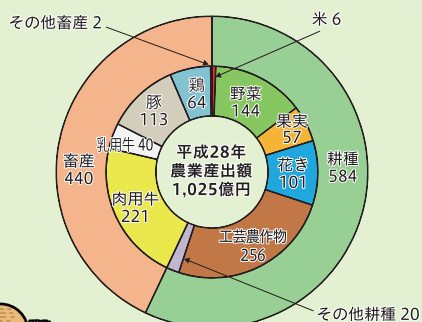
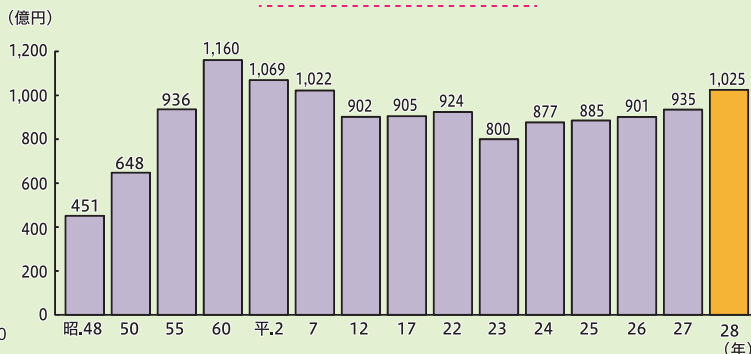


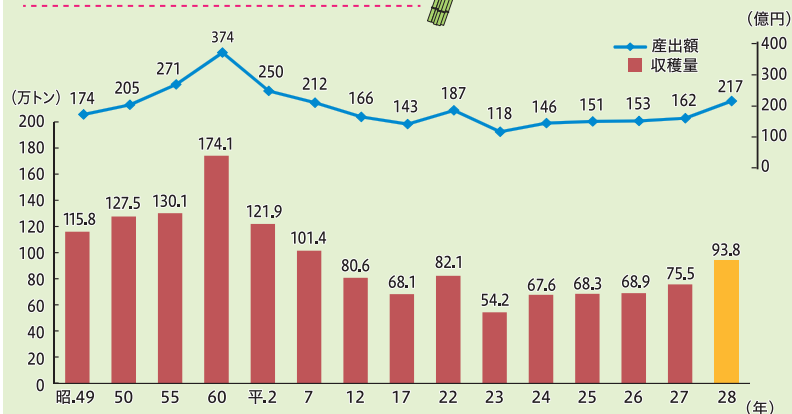
図2 農業産出額の推移



さとうきび収穫量が17年ぶりに90万トンを超える豊作



図3 さとうきびの収穫量及び産出額の推移



さとうきびは、沖縄農業の基幹作物として県内各地で栽培されており、重要な地位を占めています。その収穫量は年によって増減があるものの、近年減少傾向となっており、特に平成23年産の収穫量は、度重なる台風や干ばつなどの気象災害や病害虫の発生などにより復帰後最少となりました。

このことから、国では自然災害被害対策として、平成24年度に増産基金事業(セーフティーネット基金事業)を創設するとともに、関係機関と一体となって地域ごと・離島ごとに定めた「さとうきび増産プロジェクト」の実現に必要なハーベスタ導入、肥料・農薬、かん水に要する費用などを生産農家

や各地区さとうきび協議会などに対して支援してきました。その結果、平成28年産では気象条件に恵まれたこともあり、平成11年以来17年ぶりに90万トンを超える豊作となりました。これにより、平成28年のさとうきびの産出額は、前年と比べて55億円増加し217億円となり、産出額全体に占める割合は21.2%と、耕種部門では1位となっています。



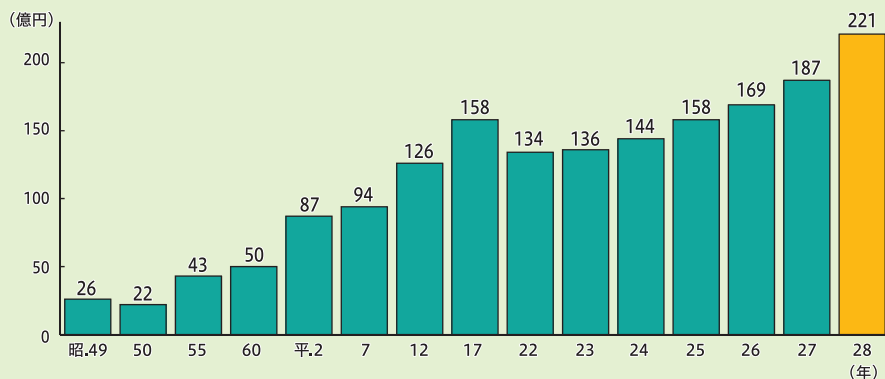
肉用牛の産出額が初めて200億円を突破



肉用牛の子牛価格は、平成19年後半から低下しはじめ、平成20年のリーマンショックの影響による国内外の需要減少もあり、価格低下に拍車がかかりました。これに伴い、繁殖雌牛も減少しましたが、平成22年以降は、繁殖雌牛の減少により子牛の出生頭数が減少したことなどから、今日まで子牛価格は上昇傾向で推移しています。

また、平成28年の黒毛和種子牛取引頭数では沖縄県は全国第4位となっており、全国有数の肉用牛生産基地となっています。

図4 肉用牛の産出額の推移



このような中、平成28年の肉用牛の産出額は、飼養管理施設及び草地整備の進展など畜産農家の生産基盤が強化されたほか、付加価値の高い子牛生産に向けた優良雌牛の導入などの取り組みが進んだことに加え、近年の子牛の市場価格の高値傾向もあり、前年に比べて34億円増加し221億円となりました。肉用牛の産出額が200億円を超えたのは、農業産出額の統計を取り始めてから初めてのことです。また、農業産出額に占める割合は21.6%と、平成25年から連続して品目別産出額1位となっており、沖縄農業のけん引役になっています。



沖縄県の農業産出額上位10品目



平成28年の品目別産出額の順位をみると、1位は肉用牛で2位はさとうきび、3位が豚となっており、この3品目で農業産出額全体の過半(53.8%)を占めています。

沖縄では、亜熱帯地域の気候特性を活かして生産されているゴーヤーやきく、熱帯果樹であるマンゴーといった沖縄ブランドとも言える品目が上位に入っているのが特徴となっています。

表1 過去5年の農業産出額上位10品目(構成比)の推移

単位:億円

順位	平成28年			平成27年			平成26年			平成25年			平成24年		
	農産物名	産出額	構成比(%)	農産物名	産出額	構成比(%)	農産物名	産出額	構成比(%)	農産物名	産出額	構成比(%)	農産物名	産出額	構成比(%)
1位	肉用牛	221	21.6	肉用牛	187	18.2	肉用牛	169	18.8	肉用牛	158	17.9	さとうきび	146	16.6
2位	さとうきび	217	21.2	さとうきび	162	15.8	さとうきび	153	17.0	さとうきび	151	17.1	肉用牛	144	16.4
3位	豚	113	11.0	豚	120	11.7	豚	133	14.8	豚	123	13.9	豚	131	14.9
4位	きく	78	7.6	きく	84	8.2	きく	68	7.5	きく	71	8.0	きく	72	8.2
5位	鶏卵	49	4.8	鶏卵	55	5.4	鶏卵	50	5.5	鶏卵	53	6.0	鶏卵	53	6.0
6位	葉たばこ	38	3.7	生乳	42	4.1	生乳	41	4.6	生乳	41	4.6	生乳	41	4.7
7位	生乳	38	3.7	葉たばこ	32	3.1	葉たばこ	41	4.6	葉たばこ	39	4.4	葉たばこ	37	4.2
8位	マンゴー	20	2.0	マンゴー	21	2.0	マンゴー	21	2.3	マンゴー	20	2.3	ゴーヤー	18	2.1
9位	ゴーヤー	15	1.5	ブロイラー	15	1.5	パインアップル	15	1.7	ゴーヤー	15	1.7	マンゴー	17	1.9
10位	ブロイラー	15	1.5	ゴーヤー	14	1.4	ゴーヤー	14	1.6	パインアップル	13	1.5	パインアップル	13	1.5



沖縄農業の更なる発展の起爆剤となることに期待



農業産出額の1,000億円台への回復は、県内農業関係者の大きな目標でもありました。21年ぶりの達成は、農家と関係団体の生産性向上の取組みや行政・関係機関の支援など、農業関係者の努力の賜であるといえ、これを契機に沖縄の農業がより一層発展することが期待されています。

農業産出額統計の目的

農産物の産出額を推計し、農業生産の実態を金額で評価することにより明らかにし、農政の企画・推進のための基礎資料を提供することを目的としています。

この統計結果は、地方公共団体における農政推進の指標、県民経済計算の資料などに利用されています。



統計調査課 098-866-1671